

令和 6 年度 社会福祉振興助成事業

美術作品の鑑賞機会と制作体験を
出張型で提供する文化教育事業

成果報告書



移動美術館 アート・トラック

アートを身近に。
移動型ギャラリーによる出張展示。

荷台がひらくと、そこはまるで美術館。
側面に作品が飾れる特別なトラックを使った、車一台分のちいさな移動美術館プロジェクトです。
作品を直接見るよろこびを届け、アートが身近にある時間をつくれます。

はじめに

本事業は、児童養護施設で暮らす児童や、なんらかの理由で十分な芸術文化体験を得られていない児童に対し、美術に触れ、それを理解し楽しむために必要な教育を専門家から受けられる機会を創出する教育事業です。

一般財団法人カルチュラルライツは、美術の鑑賞機会やワークショップによる制作体験を、様々な場へ届けるべく活動を続けてきた非営利団体です。公立美術館があるように、美術は公共性の高い文化と認められていますが、実際にそれを享受する機会は生育環境や教育環境で左右されてしまいます。文化の感受には教養学習が必要ですが、その機会が限られているために、公的な文化資産が活用されきっていないとも言えます。

これを背景に、私どもは例えば、学校外の学習機会が限られてしまう傾向のある、児童養護施設に暮らす児童を対象に活動を広げようと取り組んでまいりました。美術作品の鑑賞体験を提供するには、多くの場合、引率に大きな負担がかかり、また、非専門家が内容を説明することも困難です。しかし文化芸術を感得することは、精神的な働きにおいて児童の発達に重要な役割を果たすため、そういった環境にある児童にこそ届けるべきであると考えたためです。

弊団体は、出張型で美術鑑賞と制作体験を提供する手法を開発してきました。車の移動性を利用し、美術作品を展示することができる荷台を持ったトラックでアーティストとともに各地を訪問、そこで対話型鑑賞と体験学習の提供を行なっています。これが本事業の中心となる企画「移動美術館アート・トラック」プロジェクトです。引率の労力がかからず、他の利用者への配慮が必要ない環境で美術の鑑賞教育を行うことができ、また制作体験や、アーティストと触れ合う体験も供することができる本事業は、多様な学びの場を生起させます。



「移動美術館アート・トラック」を活用した 児童養護施設で暮らす児童を対象にした美術教育活動

トラックの荷台に美術作品を展示して各地へ出張し、本物の作品を使った鑑賞教育プログラムを実施する企画「移動美術館アート・トラック」を児童養護施設で展開しました。

アーティストや学芸員資格を持ったスタッフの指導の下、作品の鑑賞教室を行った後、そこで得た知識を活用しながら自身を表現する手段を学ぶ造形ワークショップも併せて行うプログラムとなっています。

プログラム内容は、3名の現代美術作家と連携し、共同で作品展示とワークショップを用意しました。

開催概要

11日間で9箇所の施設をめぐってプログラムを実施、延べ232人の児童に対し、美術教育活動を行うことができました。

2024年

4月6日 新日本学園（神奈川県川崎市中原区木月伊勢町3-3）

8月10日 すまいる（神奈川県川崎市川崎区浜町2-22-16）

8月11日 高風子供園（神奈川県横浜市中区本牧元町72-1）

8月20日 ポート金が谷（神奈川県横浜市旭区金が谷550）

9月21日 しらかば子どもの家（神奈川県横須賀市長瀬3-3-1）

11月4日 中心子どもの家（神奈川県相模原市中央区田名10125）

11月17日 新日本学園（神奈川県川崎市中原区木月伊勢町3-3）

11月30日 横浜中里学園（神奈川県横浜市青葉区みたけ台26-53）

12月15日 すまいる（神奈川県川崎市川崎区浜町2-22-16）

2025年

2月2日 川崎愛児園（神奈川県川崎市宮前区馬絹1丁目24-5）

3月17日 旭児童ホーム（神奈川県横浜市旭区上白根町914-7）

木村桃子企画

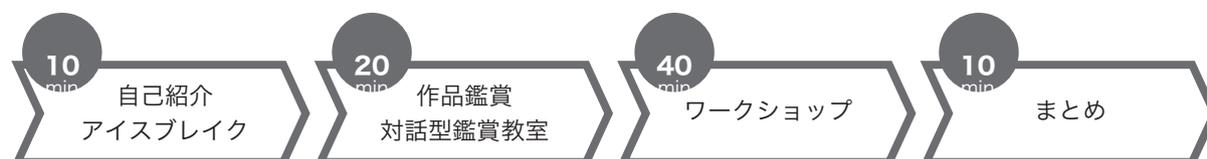
多田恋一朗企画

山本麻世企画

その他、活動の周知として、全国各地の児童養護施設に資料を送付し、いくつかの施設には訪問の上、スタッフによるワークショップのデモンストレーションを含む企画説明を行った。

プログラムの流れ

学芸員資格を持つファシリテーターとアーティスト本人の指導のもと、作品が展示されているトラックの周囲で鑑賞教室を行います。その後、施設内に移動し、ワークショップを行います。



1. コラボレーションアーティスト：木村桃子

作品展示「星と人のけしき」

彫刻家の木村桃子は、星座や人をモチーフに木彫作品を制作しています。

星の表現として光を透かすファイバーを仕込んだりと、一見静謐な木彫作品に、様々な仕掛けを施しています。現代美術の表現の特徴的な面白さを体感しながら、距離や時間といった星にまつわる深遠なテーマを学ぶことができます。



ワークショップ「こもれびの窓をつくろう」

木村桃子の枝を使った作品をイメージしたワークショップです。

木枠の中に枝を絡み合うように積み、グルーガンで固定していきます。出来上がった作品を太陽にかざすと、自分だけのカタチのこもれびが生まれます。



2. コラボレーションアーティスト：多田恋一郎

作品展示「ラクガキ、また誰かと出会うために」



多田恋一郎は、漫画のようなテイストの人物像を、油絵やペンによるドローイングなど多様な形態で展開するアーティストです。一見見慣れたような漫画的表現を使いながらも、精神的な表現が内実に渦巻いているような、現代絵画表現の複雑な面白みが立ち現れることを知ることができます。

ワークショップ「ラクガキの描き方」

多田がドローイング作品に使用するペンや、多様な質感を持つ色紙を使って、アートな塗り絵を楽しむワークショップです。

様々なテクスチャを持ったカラフルな紙には、作家が特別に制作した下絵がプリントされています。一枚好きな絵を選んでもらい、透明インクのペンと不透明インクのペン、クレヨンなどの複数の画材を組み合わせることで、それら画材の色の出方の違いを体感していただきます。



3. コラボレーションアーティスト：山本麻世

ワークショップ「へその緒をつくる」



山本麻世は、「へその緒」をモチーフに、標識テープをリリアン編みしてつくるシリーズを代表作としています。誰でもできる手編みの技術でも、リボンやテープといった少し変わった素材を使うことで、表現性が高まります。子どもたちの作品を山本の作品に繋げ、大きなリリアンをつくって楽しめます。

02

「移動美術館アート・トラック」を活用した 特別支援学校での美術教育活動

「移動美術館アート・トラック」プロジェクトを、特別支援学校及び特別支援級の授業で展開しました。

プログラム内容は、3名の現代美術作家と連携し、共同でワークショップを用意し、アート・トラックの展示鑑賞とともに実施しました。

開催概要

4日間で3箇所の学校をめぐるプログラムを実施、延べ168人の児童に対し、美術教育活動を行うことができました。

2024年

7月21日 神奈川県立湘南支援学校（神奈川県平塚市御殿 4-14-1）

11月1日 浦安市立東野小学校（特別支援級）（千葉県浦安市東野 1-7-3）

12月19日 神奈川県立茅ヶ崎支援学校（中学部）（神奈川県茅ヶ崎市西久保 29-1）

2025年

1月17日 神奈川県立茅ヶ崎支援学校（小学部）（神奈川県茅ヶ崎市西久保 29-1）

ゆにここ企画

泉里歩企画

堀江和真企画

1. コラボレーションアーティスト：ゆにここ

ワークショップ「さわって楽しい“むにゅ”をつくろう」

ゆにここは、多様な質感の布やワタ、和紙などを使用し、手触りを重視した作品制作を行なっています。

アーティストが一つ一つ手作りしたぬいぐるみの「体」は、様々な種類の布地でできており、手触りが違います。触覚を研ぎ澄まし、手の感覚で好きなものを選んだら、顔や手足をつけて、自分だけのぬいぐるみ「むにゅ」を作ります。



2. コラボレーションアーティスト：泉里歩

ワークショップ「ドローイング体験 - 色彩のダンス」

泉里歩はボールペンを使って、線で画面を埋め尽くしたようなドローイング作品を制作しています。それらにおける線描の表現とコンセプトを体感できるよう企画したワークショップです。使い慣れた普通のボールペンを使って、モチーフが見えなくなるまで線を繰り返し引き続けていくうちに、画面の中に次第に生まれてくるリズムを楽しめます。



3. コラボレーションアーティスト：堀江和真

ワークショップ「粘土でお花づくり - プット・オン・カラー」

アーティスト堀江和真が用意したカラフルな素材から好きなものを選び出し、好きな色の紙粘土のボールに埋め込んだり刺したりして花をつくります。

貼り付ける素材は、工作用品、おもちゃのプラ素材などカラフルなものを用意し、好きな色、好きな質感のものを探すことを楽しんでもらいます。色々な素材をパッチワークしたような花は、選んだ好みの質感で個性が現れます。



事業評価 訪問先のご感想

アンケート集計結果

事業の実施後、受け入れのご担当者様にアンケートをお願いし、同時に参加した他の職員の皆様の意見もできるだけ集約していただけるようご記入いただきました。

満足度

「企画の満足度はいかがでしたか？」という質問に対し、「とても満足」「満足」「やや不満」「不満」の4択で、全施設にて「とても満足」と回答がありました。

また、「また企画に参加したいですか？」という質問に対し、「参加したい」「参加したくない」の2択で、全施設にて「参加したい」と回答がありました。

自由記述

児童たちの様子はいかがでしたか？お気づきのことがあればお教えてください。

- 興奮しているようすでした。
- 今回来てもらうのが二度目だったので、「今回はどんなアートが来るかな？」と、来る前から楽しみにしていました！
- 楽しんでいて、普段は見られないようなものを見られて、喜んでいました。
- よく質問したり、普段内向的な子がお兄さんに話しかけていたのがびっくりしました！
- 元々興味がすごくある子もいれば、正直、ちょっと行ってみようかなってくらいの子も最初はいたのですが、全員が最終的に夢中になっていて、こういうものも楽しめる子達だったんだなと私も驚きました。

作品鑑賞について、お気づきのことがあればお教えてください。

- すぐに飽きてしまうのではないかと心配していましたが、全然そんなことなく、みんなお話をよく聞いて楽しんでいたので安心しました。詳しい方のお話を聞けると飽きないんだなと思いました。
- スタッフさんがよく気を配ってくれて、感想を聞いたりしてくれるので、しっかり鑑賞していました！
- 子どもたちの感想が面白くて、さかさまになってる文字に気づいたり、自由な解釈に私もハッとさせられました。楽しい時間になりました。
- 自由に見て感想言い合ったりしていいんだな、と和やかな雰囲気でのびのびできてました。アートって難しく考えすぎなくていいんだよってメッセージを受け取りました。

ワークショップについて、お気づきのことがあればお教えてください。

- 自分たちではなかなか用意できないモノを用意してもらえてありがたかったです。
- うちの画伯が個性バクハツさせていて、褒められて嬉しそうにしていた！
- 最後にどんなものができていてもいいところを見つけてもらえるのが安心できました。正解がないアートの良さかなと思いました。
- 施設で用意できるもの、考えてあげられることは少ないので、専門家の方が考えたワークショップを無償で楽しませていただけて、とてもありがたいものでした。ルールや、作り方の大まかな部分は決まっていながら、自由にしてもいい部分もあって、そのバランスがキモなのかなーと思い、勉強になりました。

もっとこうだったら！など改善できそうなことがあればお教えてください。

- 以前来ていただいた際には、触れる作品があったので、毎回そういうものがあつたりすると興味をもっと持ってもらえるかなと思いました。
- 全員でひとつの作品をつくるようなものも前にやられたことがあるとのことだったので、そういったワークショップも興味があります！

[お問合せ]

一般財団法人カルチュラルライツ

Mail info@cultural-rights.org

web

